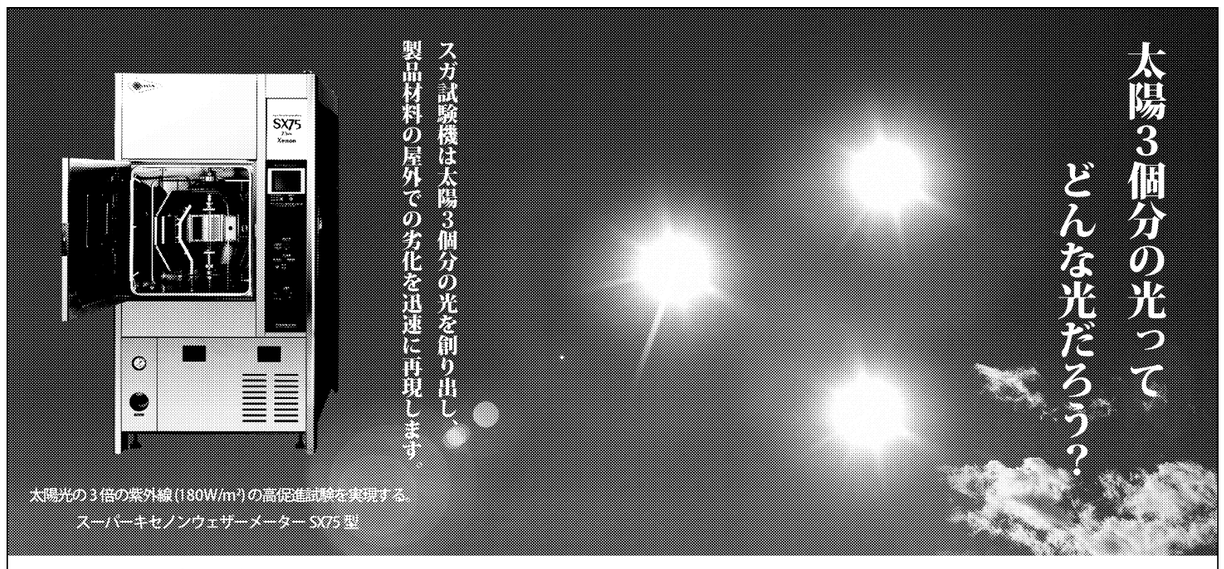
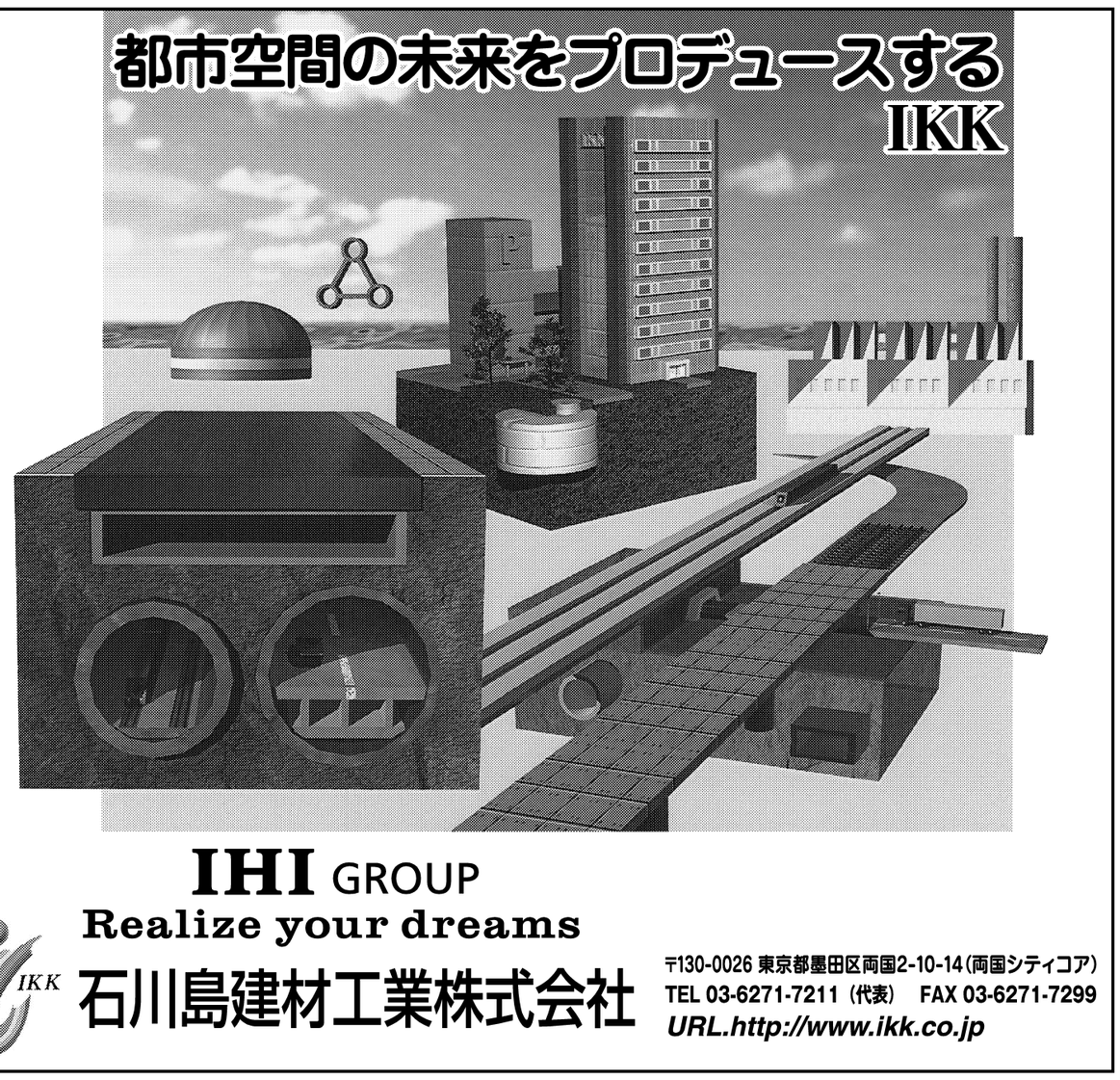
窓周り製品を通じて
魅力的な住生活を提案します。

トーソーは、国内シェアNo.1のカーテンレールをはじめ、ブラインドやロールスクリーンなどの窓周り製品を提供しています。生活提案型企業としてデザイン、機能、品質はもちろん、省エネ環境を創造する製品づくりで、快適で素敵な窓辺を演出していきます。

窓辺をかえる、明日がかわる。
TOSO トーソー株式会社
〒104-0033 東京都中央区新川 1-4-9
TEL:03-3552-1211 FAX:03-3552-1009
http://www.toso.co.jp



スガ試験機株式会社
Suga Test Instruments Co.,Ltd.
www.sugatest.co.jp www.suga-global.com
本社・研究所　〒160-0022　東京都新宿区新宿 5-4-14
tel 03-3354-5241 fax 03-3354-5275
環境試験機のことなら
スガ試験機　検索



IHI GROUP
Realize your dreams
IKK 石川島建材工業株式会社
〒130-0026 東京都墨田区両国2-10-14(両国シティコア)
TEL 03-6271-7211（代表）　FAX 03-6271-7299
URL.http://www.ikk.co.jp

多様なモノづくりの顔

東京都には医療機器から伝統工芸品まで多様なモノづくりの顔がある。各区とも産業集積を反映した施策を講じ、活性化に取り組んでいる。このいくつかを紹介する。

医療機器開発に挑戦

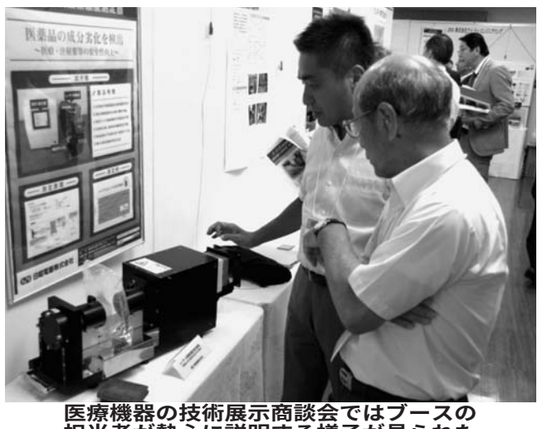
大田区・文京区

大田区と文京区は自治体の垣根を越えて医療機器の開発に挑戦している。2月に医療関連産業の連携に関わる覚書を締結。大田区の中小製造業のモノづくり力と文京区の医療機器製造販売企業をマッチングし、成長分野を開拓する。

大田区で医療機器開発に挑戦している中小企業が少なくないが、薬事法の対応などで製品化に時間がかかる点が課題だった。大田区産業振興協会の野田隆理事長は「医療機器関連企業が多い文京区と組むことで、大田区の中小製造業が製品を開発しやすくなる」と期待を寄せる。

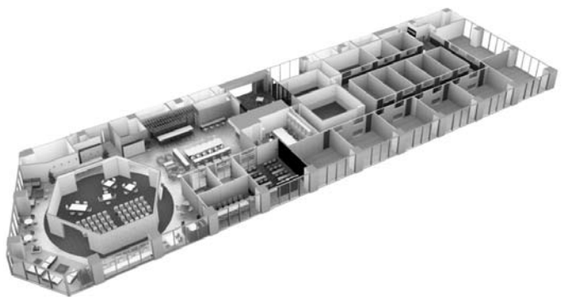
一方、文京区には東京大学や順天堂大学などの医科系大学や医療機器関連企業が集積しており、かつては医療機器部品を手がける町工場もあった。だが廃業などで対応できる企業が減少し、今村清日本医療機器協会理事長は「区内企業だけでは医療機関のニーズや技術に応えられない」と懸念していた。

連携により、これらの課題を解消する。大田区産業振興協会が主催し、6月に文京区で開いた医療機器の技術展示商談会では、大田区の中小企業21社が技術・製品を展示した。日本医療機器協会の会員も約60社が参加し、活況だった。今村理事長は「文京、大田の両区で力を合わせて製品開発につなげたい」と意気込んでいる。


医療機器の技術展示商談会ではブースの担当者が熱心に説明する様子が見られた

ビジネス拠点整備

品川区


2015年6月に開設する品川産業支援交流施設のイメージ図

品川区は製造業と情報通信業が多く立地している。中でも大崎地区は京浜工業地帯の発祥の地とされ、明治時代からガラス工場をはじめとする製造業が集積。しかし、近年、再開発が進んで多くの工場が移転した。

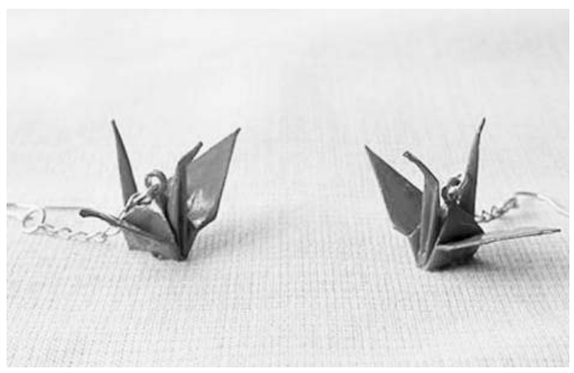
このため区はビジネス拠点「品川産業支援交流施設」を、2015年6月に開設する。オフィススペース、セミナーや展示会の会場として活用できるイベントホールなどを設置するほか、電源や無線LANを完備したオープンラウンジも用意する。創業間もないベンチャー企業を支援するため、月額制で業務スペースを貸し出す。この地でモノづくりの精神も伝える。

また区内企業の活性化に向けた支援メニューも豊富。環境や医療福祉などの成長産業支援事業で、新製品や新技術の開発に必要な費用の一部を助成する補助金制度の募集を8月に始める。補助額は最大500万円で、開発などにかかる経費の3分の2を助成する。さらに区内中小企業を対象にソフトウエア開発のための費用を補助する制度もある。

このほか大手企業OBが中小企業を訪問し、問題解決に向けてコンサルティングする「ビジネスカタリスト派遣事業」などの取り組みにも力を入れている。

伝統工芸産業を活性化

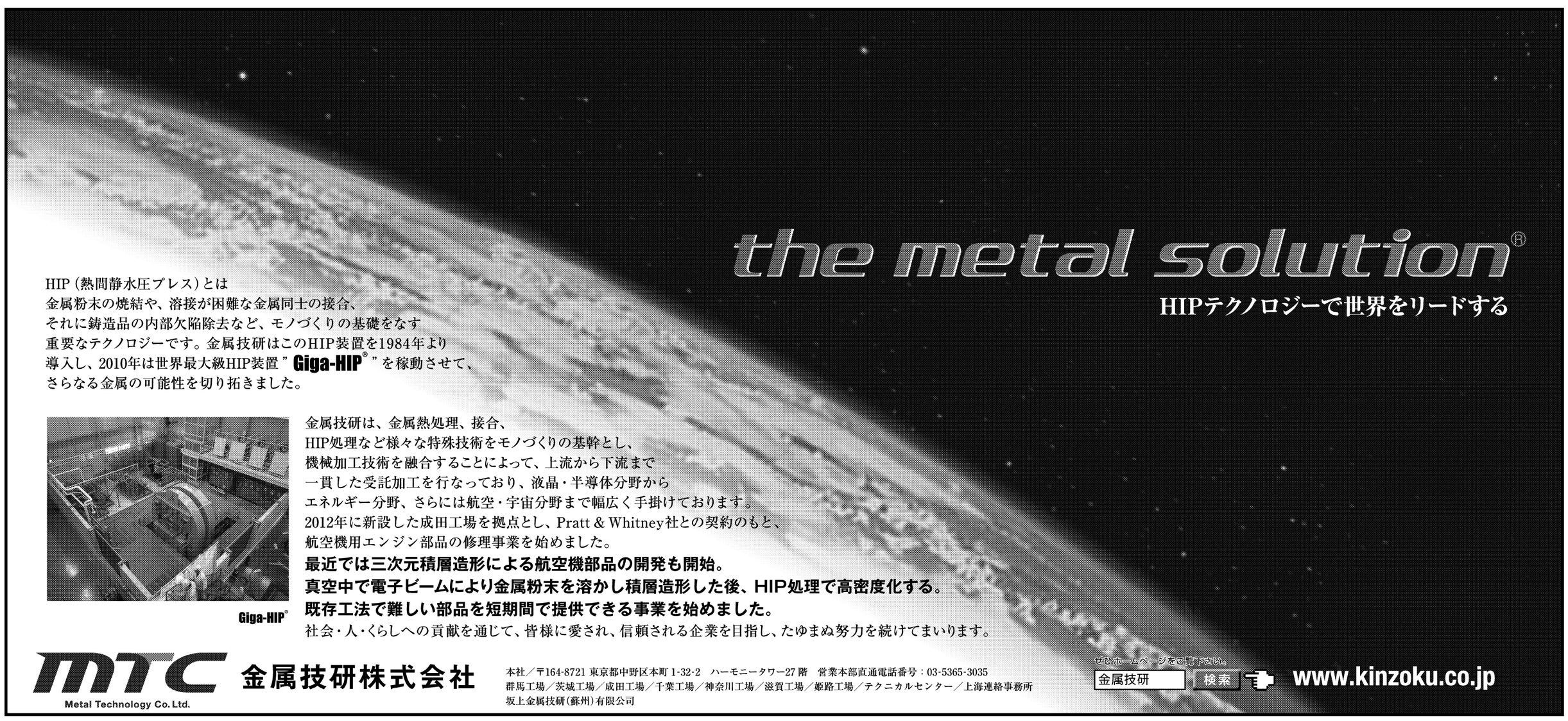
江戸川区・江東区・墨田区


江戸川区の漆器職人と女子美大生が開発し折り鶴の表面に漆を施した「おりづるピアス」

江戸川区、江東区、墨田区は伝統工芸産業の活性化に挑んでいる。女子大学生と共同で製品を開発したり、地域ブランドで認証したりして「伝統の灯を絶やすまい」と知恵を絞っている。

江戸川区の「えどがわ伝統工芸産学公プロジェクト」は、区内の伝統工芸士が、女子美術大学の学生と共同で、1年間かけて工芸品を開発する。開発の条件は〝売れる工芸品〟だ。高価で現代の生活様式に合わないといった理由で、区内の伝統工芸産業は衰退していた。このため「学生の感性を取り入れて活性化させようと試みた」（江戸川区の彦田義敬産業振興課長）。

市場性の高い工芸品はネット通販サイト「楽天市場」の江戸川区名産品ショップ「えどコレ！」などで販売している。ショップの売上高は12年約1700万円、13年約2100万円。このうちプロジェクト開発製品は約6割を占める。

伝統工芸品を認定し、知名度の向上を後押しする動きも活発化している。江東区は14年度に「江東ブランド認定事業」をスタートした。認証メニューは製造業部門と伝統工芸部門。江東区経済課は「区内にはべっ甲などの伝統工芸産業が残っている。製造業と一緒にアピールすることにより、地域経済を活性化できると判断し、工芸品も認証することにした」としている。認定製品は15年2月に東京・有明の東京ビッグサイトで開催の「東京インターナショナル・ギフト・ショー」の江東区ブースで展示する計画。製品情報を掲載した冊子やリーフレットの配布も検討している。

墨田区はすみだ地域ブランド戦略「すみだモダン」の商品部門で68品目を認定している。このうち約20品目が「江戸木箸」や「江戸切子」などの工芸品だ。認定品は伝統が生きているだけではなく、デザイン性、新規性の高いものが多い。墨田区の郡司剛英産業経済課長は「『あたらしくある。なつかしくある。』というすみだモダンのテーマを具現化している製品を選んでいる」と明かす。東京スカイツリーなどの名所に訪れた国内外の観光客に訴求し、「区内企業のモノづくり力への関心を高めたい」との思いを込める。